# 第５章　まちづくり計画の推進体制と運営

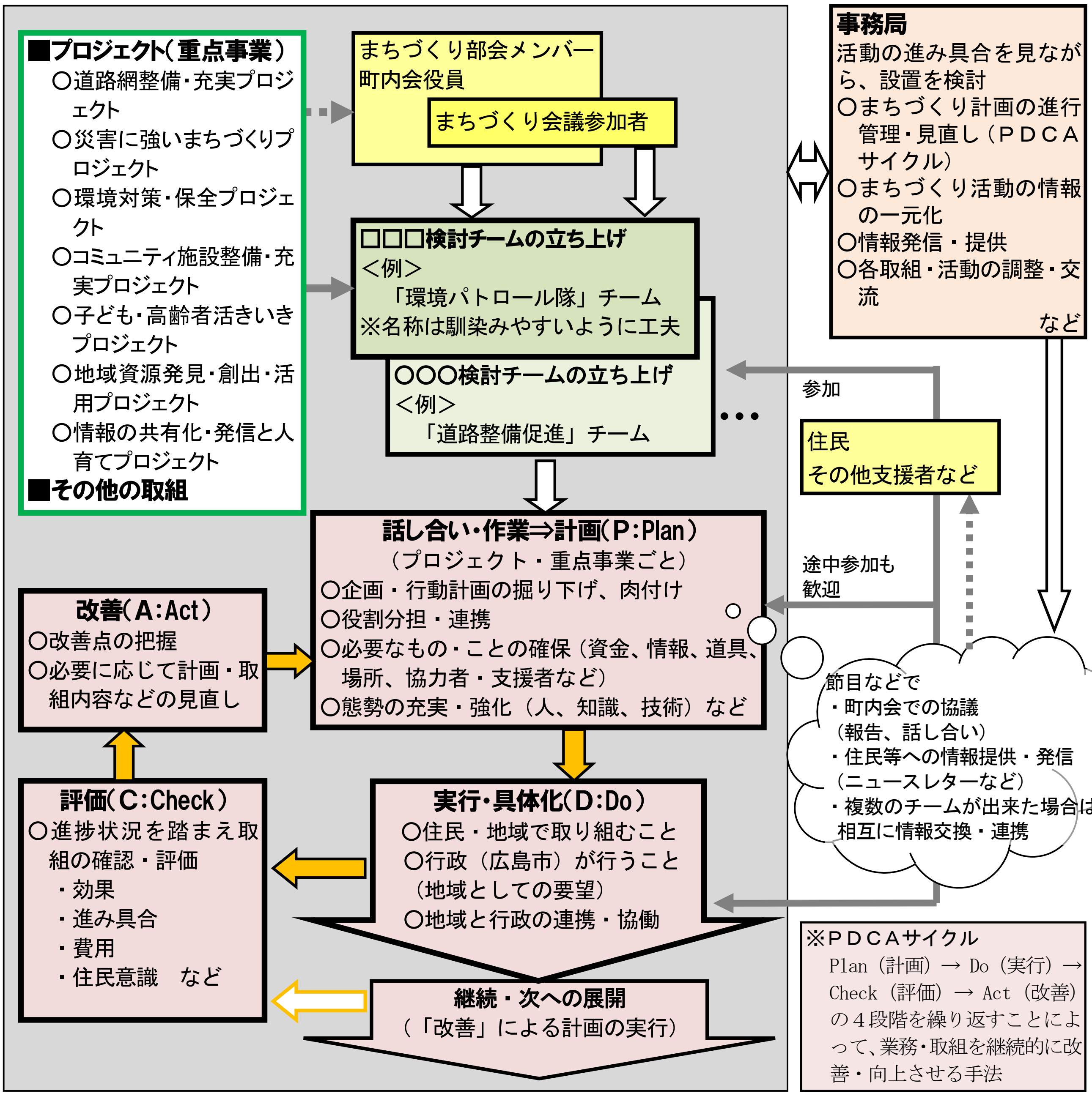
## １　計画の推進体制

まちづくり部会（町内会）がリードしながら、まちづくり会議の参加者をはじめとする住民、その他支援者などにより、実際にまちづくり（プロジェクトなどの）活動を行うチーム、実行委員会などの立ち上げを目指します。

取組（プロジェクト）を具体化する方法（取組方）としては、優先度の高い取組を行うことの他に、先ず第一歩として、できること（行いやすいこと）を行ってみることも考えられます。

いずれにしても、取組・活動の途中段階から、評価できる点（良い点）、問題点などを把握するとともに、ＰＤＣＡサイクル（Plan：計画→ Do：実行→ Check：評価→ Act：改善）の考え方を取り入れながら、次の段階に活かすことが大切です。

こうしたことを積み重ねながら、取組を継続・発展させたり、新たな取組を具体化させたりすることが期待されます。



## ２　計画の進行管理・運営と具体化に向けた課題

伴中央まちづくり計画を具体化していくためには、前記の担い手の確保と体制（態勢）づくりが不可欠ですが、それと並行しながら、この計画や伴中央まちづくり会議の成果などの情報の提供と共有化も取組の前提となります。

こうした取組の前提・基盤となることを整えながら、具体的な行動・成果を積み上げて行くことがまちづくりの展開には重要です。

ここでは、前記の「計画の推進体制」で示した内容を含め、時系列的に計画の進行管理・運営と具体化に向けた課題を整理します。

**■伴中央まちづくり会議の成果などの情報の提供と共有化（下記の取組にも共通）**

伴中央まちづくり会議の成果などを、住民等に伝え説明しながら、プロジェクトなどが住民等に共有化されることが大切です。

また、下記の取組を含め、住民等への情報の提供と共有化、参加の呼びかけ、及び必要に応じて広く情報を発信することが求められます。

**■優先順位の検討、まず取り組むことの方向づけ**

重点的取組又はそのメニューの中から、まず実行してみること、実現できるものを１つ又は複数設定し、それを実行することが効果的で、次への展開につながると考えます。

**■コアとなる担い手の確保、実行委員会等の立ち上げ（まず取り組むこと）**

実行する取組を担う中心的なメンバーの結集を図り、検討チーム・実行委員会等を立ち上げる必要があります。

**■まず取り組むことの企画・実施計画等の立案（必要に応じて助成制度を活用）**

実行委員会等により、まず取り組むことについて、具体的な内容や時期、対象、必要な資金・備品、情報発信などを煮詰め、実施計画等を立案する必要があります。

また、必要な資金を確保するため、助成制度を活用することも考えられます。その場合、申請書の作成などが必要となります。

**■まず取り組むことの担い手・支援者などの確保**

実際に取組を実行するに際しては、実行委員会等のメンバーだけでは対応できない場合があり、そうしたときには、担い手や支援者などを確保する必要があります。

**■まず取り組むことの準備・実行**

担い手や支援者等が分担・連携しながら、実施計画等に基づき準備し、取組を実行することになります。

**■取組のプロセス、結果の振り返り⇒次の取組への反映・展開**

取組が終わった段階、又はそのプロセスの節目などにおいて、評価できる点（良い点）、問題点などを明らかにし、次につなぐ課題・内容などを明らかにする必要があります。こうした課題などを踏まえ、次の取組を展開させることが効果的です。

つまり、前記の「１　計画の推進体制」で示したＰＤＣＡサイクルを取り入れることです。

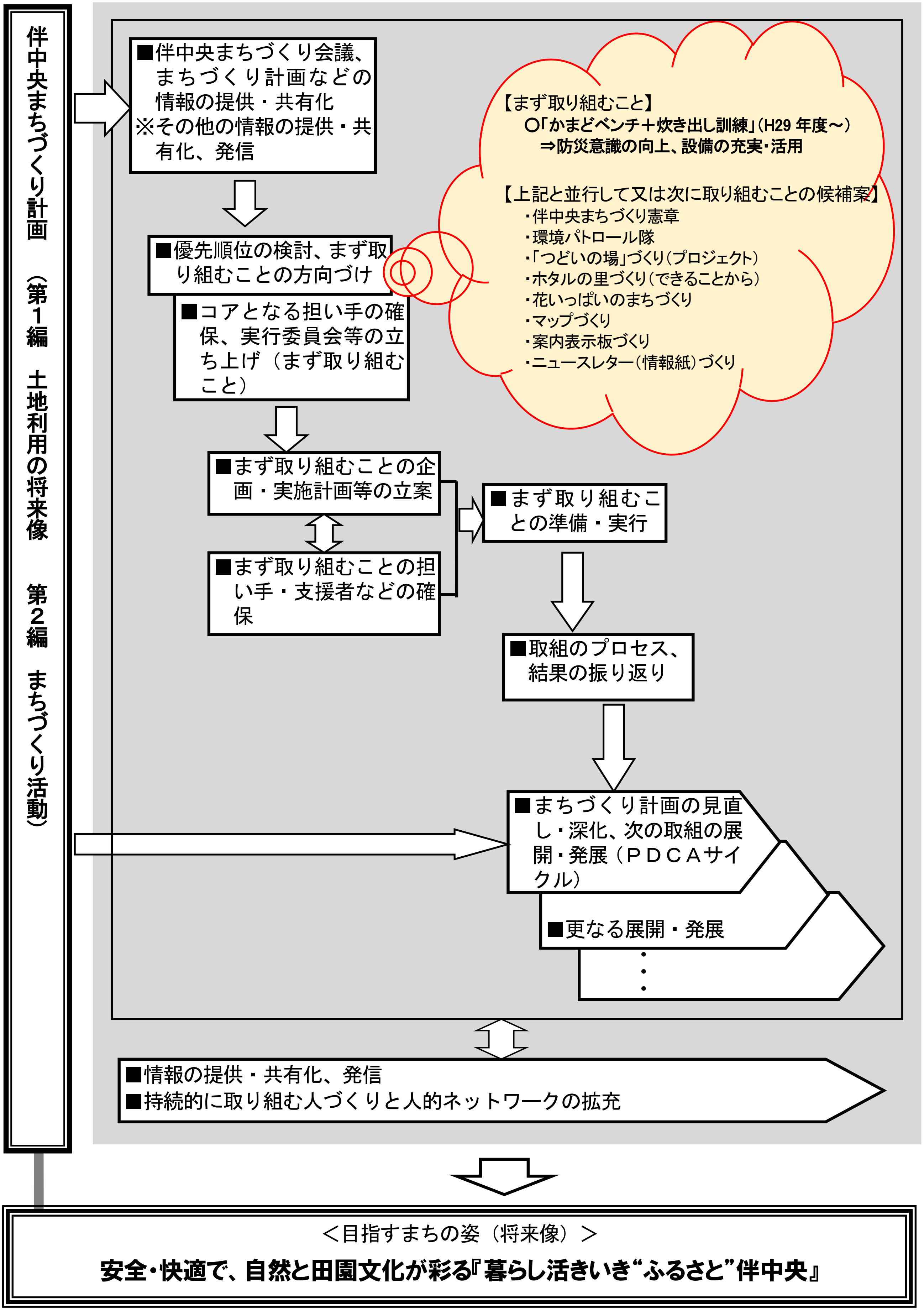
■ワークショップの成果の見直し・深化、次の取組の展開・発展

取組のプロセス、結果の振返りを踏まえながら、伴中央まちづくり計画を必要に応じて見直したり、深化させたりするとともに、次の取組を展開・発展させることが期待されます。

こうしたプロセス・取組を積み重ねることによって、目指すまちの姿（将来像）「安全・快適で、自然と田園文化が彩る『暮らし活きいき“ふるさと”伴中央』」を築いていくことになります。

■持続的に取り組む人づくりと人的ネットワークの拡充

まず取り組むことから次への展開などの取組・活動を積み重ねる中では、地区における人材の把握や活用を図るとともに、地区内外の多様な主体・人材の協力・支援、参加を得ることがまちづくりの推進力になります。その過程では、住民のまちづくり意識の醸成、更にはまちづくりを支える担い手の育成も大切です。

また、まちづくりに関わる主体・人材のネットワーク化を図り、情報の伝達や協力・支援・参加の円滑化などにつなげることが期待されます。

【計画の進行管理と具体化に向けた課題（時系列的な整理）】